



① 出雲市斐川町にある山陰ヤクルト販売本社。山陰に営業拠点が29拠点あり、各地で販売活動や健康教室事業を展開している ②「他人を思いやる、利他の心がある人にぴったりな会社」と話す山本祥二社長 ③各事業のサポート部門として、従事者の労働環境整備や生産性向上を図っている総務部 ④健康教室事業に向け、準備をする広報部社員ら ⑤ヤクルト球団のマスコットキャラクターがプリントされたボロシヤツ姿で、担当エリアを走り回る流通サービスの社員 ⑥地域貢献の一環として、健康情報を地域の住民や子どもたちに伝える事業にも注力 ⑦従業員の健康管理も重視しており、「健康経営優良法人2025認定」も取得している ⑧大ヒット中の『ヤクルト1000』を始め、乳酸菌飲料を中心多くラインナップがあるヤクルト商品

地域に届ける山陰ヤクルト販売。山本社長は、「地域の健康で幸せな暮らしを支え続けたい」と熱く語る。地域に貢献する企業が増える中、近年は需要に追いつかないほどで、健康情報動画の提供も始めた。商品だけでなく、心や体の健康を



20年以上前から熱心に行なうのが健康教室事業だ。地域貢献の一環として、広報部所属の管理栄養士や栄養士が地域の教育施設や企業、福祉施設などに出向き、お腹の健康や腸内細菌、健康のための正しい生活習慣などについての無料出前講座を実施。健康経営に関心を持つ企業が増える中、近年は需要に追いつかないほどで、健康情報動画の提供も始めた。商品だけでなく、心や体の健康を

益な働きをする「乳酸菌シロタ株」の力で腸を元気にし、病気を予防してほしい——そんな創始者の想いが詰まっています」と話す。主な業務内容は、ヤクルト商品を家庭や事業所、各種施設などに定期的に届けること。しかし、商品を配達するだけではない。商品を手渡しする際に健康情報を伝えたり、商品を提案したり、体調に合わせたアドバイスを行ったりしている。まさに心と体の健康アドバイザーなのだ。そのため、接遇に関する教育や自社商品のエビデンスについての社内研修に注力。2023年には社員やヤクルトスタッフの育成やサポートを体系的に行なう人材開発部を新設し、体制を強化した。

小さなプラスティック容器に入つた、どこか懐かしく甘酸っぱい乳酸菌飲料『ヤクルト』。小さなサイズに比して大きいのが、商品に込められた想いだ。『山陰ヤクルト販売株式会社』の山本祥二社長(64)は、「予防医学と健腸長寿、そして誰もが手に入れられる価格で提供するというのがヤクルトの原点。腸内で有

人と人、心と心をつなげる  
宅配サービスにこだわる



## お客さまとのふれあいを通じて 健康で幸せな生活づくりに貢献

ヤクルト商品を通して心と体の健康をサポートする『山陰ヤクルト販売株式会社』。山陰各地29拠点から宅配サービスを行うほか、地域の教育施設や企業向けの健康教室事業にも力を入れている。

## 山陰ヤクルト販売 株式会社

創業 昭和41(1966)年3月4日  
代表者 代表取締役社長 山本 祥二  
社員数 110名(男42名 女68名)  
本社 島根県出雲市斐川町荘原3946

### 事業内容

乳製品・清涼飲料・化粧品の販売、  
健康教室の開催など

### 勤務地(採用エリア)

出雲市、浜田市、米子市

### 採用区分

新卒採用 キャリア採用

### インターンシップ・キャリア

日程が決まり次第、公式サイト、  
Instagram・LINEにて、順次情報公開。

### 採用担当者からあなたへ

私たちには、地域の皆さんに「一人でも多くの人に健康になっていただきたい」という理念のもと、お客さまとのあたたかいふれあいを通じて、健康のお役立ちを行っています。自分の損得だけでなく、相手の気持ちを考えて行動できる方、明るくて素直な方をお待ちしております。

人材開発部 主任  
**持田 憲大さん**

### 採用に関するお問い合わせ先

**0853-73-8960**

公式サイトは  
こちら

Instagramは  
こちら

LINEは  
こちら



## 山陰ヤクルト販売のあれこれQ&A

**Q.** 社会貢献に力を入れていると聞きました。

**A.** 女子サッカーチーム《ディオッサ出雲FC》の選手3人とフットサルクラブ《ポルセイド浜田》の選手2人を社員として雇用しています。練習時間の確保に配慮しつつ働いてもらうことで、選手のスポーツ活動と生活基盤確立の両方をサポートしています。また、スポンサーとしても、チームの活動を支援しています。

社内には、元全国トップレベルの卓球選手や愛好者が多数いることから卓球部があり、社会貢献の一環として、県内の高校や大学の卓球部に訪問指導する活動を行っています。



ディオッサ出雲の選手3人とポルセイド浜田の選手2人を社員として雇用。スポーツ活動に加え、生活基盤確立をサポートしている



地域貢献の一環として、卓球部の社員らが島根県内の高校・大学に出向き、現役選手の指導を行っている

**Q.** どんな仕事がありますか?

**A.** 社内には、商品をお客さまのもとにお届けするヤクルトスタッフの育成や業務サポートを行う《宅配サービス部》、スーパー・事業所・施設などに商品や健康情報を届ける《流通サービス部》、健康教室の開催やさまざまな広報媒体を活用して社内外へ情報を発信する《広報部》のほか、《総務部》、《人材開発部》があります。



さまざまな業務を通して、地域住民の健康で幸せな生活づくりに貢献しているヤクルト社員

**Q.** 研修制度や資格取得支援について教えてください。

**A.** 入社後は、ヤクルトの歴史や経営理念、健康知識、接遇スキルなどを学びます。その後は実践を通じて業務を習得する傍ら、役職や階層に応じた研修を本社が提供するメニューや外部講師を招いて行い、スキルアップを図っています。

健康管理能力検定3級は、会社が費用を全額負担して全社員に取得してもらっています。その他、セールススキル検定や販売士、簿記など、業務に関連する公的資格に合格した人には、奨励金を出しています。



社員は研修や資格取得などを通じて、幅広く健康知識などを習得し、業務に生かしている

### お客さまに寄り添う健康アドバイザーへ。スタッフの成長がやりがい

子育てが一段落した頃に思い出したのが、若い頃にしていた化粧品メーカーのインストラクターという仕事だった。「現場のOJT指導を通じて、スタッフを育成・マネジメントするのが楽しくて。ヤクルトにもスタッフをサポートする仕事があると知って興味を持つようになりました」林さん。実家では宅配サービスを利用してあり、「ヤクルトスタッフ」も身近な存在だった。

新人スタッフに同行し、顧客への対応をレクチャーするほか、既存スタッフの売り上げ



宅配サービス部  
**林 比沙子さん(47)**  
2022年入社

### 自社開発の健康飲料を自信を持って提案。熱中症対策にも注力

担当地域を中心に企業や病院、施設などを回り、新規取引に向けた営業活動に力を入れる。「例えば《Y1000》という商品は、一時的な精神的ストレスがかかる状況でのストレス緩和や睡眠の質向上の機能があります。私も飲んで、特に睡眠効果を実感。自分が感じた商品の良さをお客さまの心に届けたい」と意気込む。自社商品の理解を深めることで、的確にお客さまのニーズを把握し、それぞれのお客さまに合った商品やサービスを提案できるよう取り組んでいく考えだ。

猛暑が続く近年、事業提携するキリングループの各種飲料を顧客の工場や建築現場などに届けるサービスにも注力する。高温多湿な作業環境では熱中症リスクがひとくわ高く、水分補給は不可欠。「6~9月頃の暑い時期は需要が高く、大忙しです」

営業活動に加えて、自動販売機の補充やメンテナンス、納品業務も担当。2トントラックで出雲・雲南地域を駆け巡る。「品質保持には気を使いますが、売り上げを管理しつつ、自販機の商品ラインナップを考えたりするの面白いです」と笑顔を見せる。



流通サービス部  
**寺本 昇平さん(32)**  
2018年入社

### 健康情報を伝える“話す栄養士”。SNSでも積極的に発信

給食調理員に憧れて栄養士を目指していた安食さん。短大のカリキュラムの一環でヤクルト社員の講義を聞き、「話す栄養士」という仕事に惹かれた。「もともと人と話すのは好きでした。栄養士は料理やレシピを作ることに加え、栄養について人に直接伝えることもすると知って、進路を変えました」。山陰ヤクルト本社には現在4人の栄養士と1人の管理栄養士が所属する。

月に約15回は地域や企業などで健康教室を開いたり、保育所や幼稚園、教育施設で出前授業を行ったりしている。腸の健康維

持の重要性を伝えることが目的だ。「大切な地域貢献活動です。質問を受けることも多く、日々研さんが必要ですが、それがやりがいにもつながっています」

季節の健康情報や“健腸”レシピなどを紹介する健康情報紙の作成、インスタグラムでの情報発信も担当。SNSでは3つのアカウントを使い分け、商品紹介などに加え、採用につながる情報発信にも積極的だ。今後の課題は、山陰東西に広がる社員間のコミュニケーション強化。「皆で力を合わせて地域に健康を届けたい」と話す。



広報部  
**安食 朱里さん(27)**  
2019年入社